

第 133 回 地区内中小企業景気動向調査結果

(令和 4 年 1～3 月期実績・令和 4 年 4～6 月期見通し)

1. 調査時点 令和 4 年 3 月 1 日～3 月 7 日
2. 調査対象企業数 171 社中回答 171 社 回答率 100.0%

区分	調査対象企業の範囲	調査対象企業数	有効回答数	有効回答率 (%)
製造業	従業員 300 人以上	1	1	100.0
〃	従業員 300 人以下	34	34	100.0
建設業	〃	43	43	100.0
卸売業	従業員 50 人以下	8	8	100.0
小売業	〃	55	55	100.0
サービス業	〃	30	30	100.0
合計		171	171	100.0

3. 調査方法

当金庫調査員の面接聞き取りによる感触調査です。

調査対象企業は、当金庫の営業区域（新冠町～広尾町）内に所在する企業とし、その抽出は、各業種・規模等の基本属性の構成が、調査対象母集団の属性に見合う一定基準に基づいて有意抽出で行っています。

4. 分析方法

各質問項目で「増加（上昇）」したと回答した企業の全体に占める構成比と、「減少（下降）」したと回答した企業の全体に占める構成比との差（判断指数・D I 値）を中心にして分析を行っています。

なお、同時に信金中央金庫地域・中小企業研究所が行う、全国調査結果と地区内との比較分析を行っています。

5. お問い合わせ先

日高信用金庫 業務部地域貢献課（Tel. 0146-22-4100、内線 615）
〒057-0013 浦河郡浦河町大通 2 丁目 31 番地 2

全業種総合 171 企業 (回答率 100.0%) の調査結果です

□ 概 況

今期(令和4年1~3月期)の業況判断D.I.は△51.4と、前期(△38.0、令和3年10~12月期)比13.4ポイント下降した。また、前年(△48.2)比では3.2ポイント下降した。前期(令和3年10~12月期)調査時点での今期(令和4年1~3月期)見通し(△51.5)を0.1ポイント下回る水準となった。業種別の業況判断D.I.は、製造業△48.6(前期△40.0)、建設業△27.8(同△9.3)、卸売業△62.5(同△50.0)、小売業△67.3(同△54.6)、サービス業△56.7(同△43.4)となった。

売上額判断D.I.は△54.1と前期(△21.0)比33.1ポイント下降、収益判断D.I.は△52.6と前期(△28.7)比23.9ポイント下降した。

来期(令和4年4~6月期)の予想業況判断D.I.は△46.2と、今期実績比5.2ポイントの上昇見通しとなった。業種別にみると、製造業△62.8(今期△48.6)、建設業△20.9(同△27.8)、卸売業△75.0(同△62.5)、小売業△52.7(同△67.3)、サービス業△43.3(同△56.7)と来期を見通している。

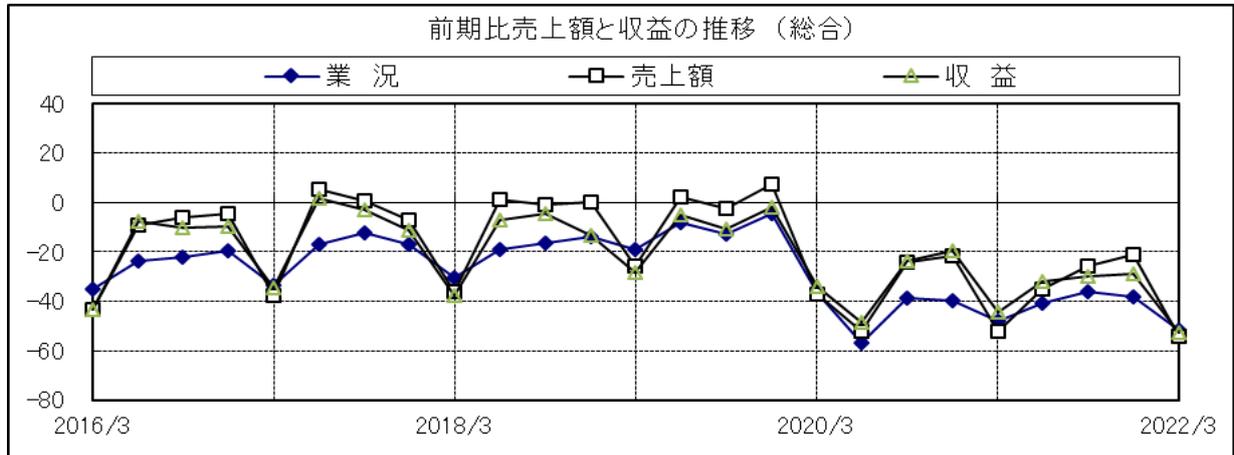
【業種別天気図】

業 種	地 区 内				北 海 道	全 国
	2021年 7月~9月	2021年 10月~12月	2022年 1月~3月	2022年 4月~6月 見通し	当 期	当 期
総 合						
製 造 業						
建 設 業						
卸 売 業						
小 売 業						
サ ー ビ ス 業						
<p>好調 ← → 低調</p> <p>この天気図は、景気指標を総合判断して作成したものです。</p>						

□ 景 況

DI 値 の推移	7～9月 期実績	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期見通し
業 況	-36.1	-38.0	-51.4	-46.2
売上額	-26.0	-21.0	-54.1	-20.6
収 益	-29.9	-28.7	-52.6	-24.5

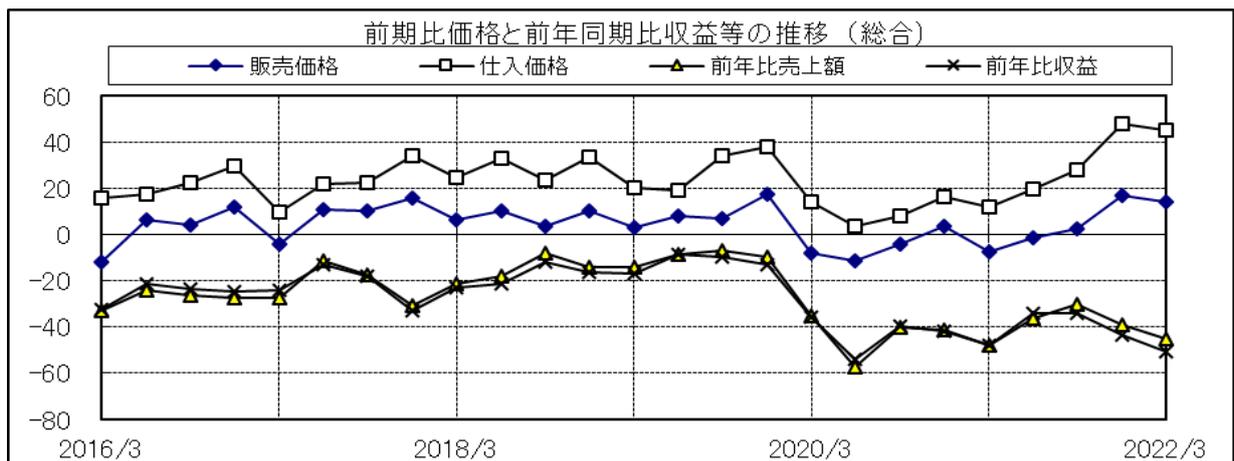
全業種総合の今期の業況判断 D. I. は $\Delta 51.4$ で、前期比13.4ポイント下降した。地区別のD. I. は、高い順に、浦河が最も高く、次に三石、えりも、広尾、様似と続き、静内が最も低い水準となった。前年 ($\Delta 48.2$) 比では3.2ポイント下降した。売上額判断 D. I. は $\Delta 54.1$ で前期比33.1ポイント下降、収益判断 D. I. は $\Delta 52.6$ で前期比23.9ポイント下降した。



□ 価格面、前年同期に比した動き

DI 値 の推移	7～9月 期実績	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期見通し
販売価格	2.3	16.8	14.1	18.8
仕入価格	28.1	48.0	45.0	44.0

販売価格判断 D. I. は14.1で、前期比2.7ポイント下降、前年 ($\Delta 7.6$) 比21.7ポイント上昇した。仕入価格判断 D. I. は45.0で、前期比3.0ポイント下降、前年 (11.7) 比33.3ポイント上昇した。前期比での販売・仕入価格を業種別にみると、販売価格は製造業が横這い、他の業種は下降。仕入価格は卸売業が横這い、小売業は上昇、他の業種は下降している。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	7～9月 期実績	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期見通し
残業時間	-6.4	-5.8	-15.2	-7.6
人手状況	-19.9	-28.6	-19.4	-19.9

残業時間判断 D. I. は $\Delta 15.2$ と、前期比9.4ポイント下降し、残業時間が減少したとする企業割合が増えた。

人手過不足判断 D. I. は $\Delta 19.4$ と、前期比9.2ポイント上昇し、人手不足感は弱まった。

□ 設備投資の動き

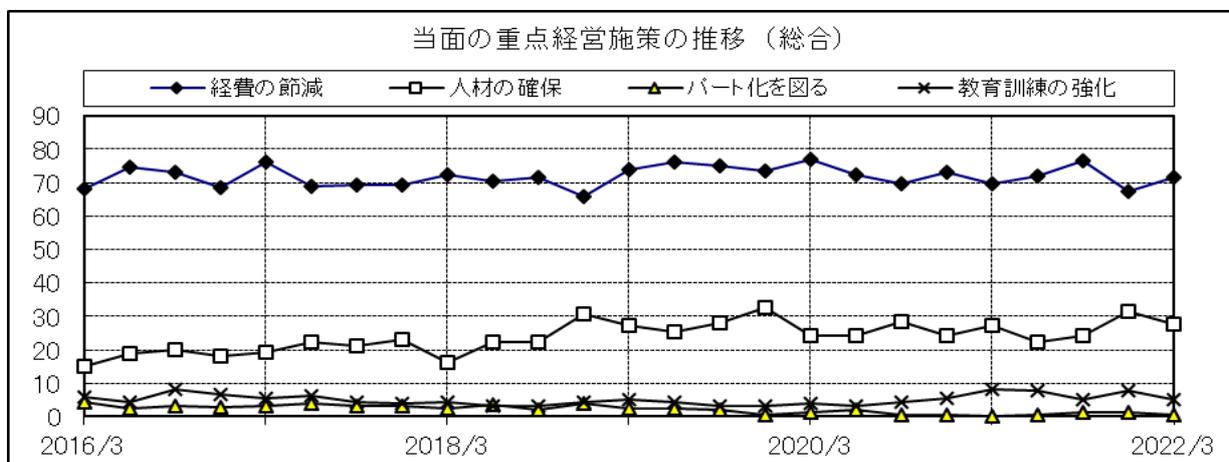
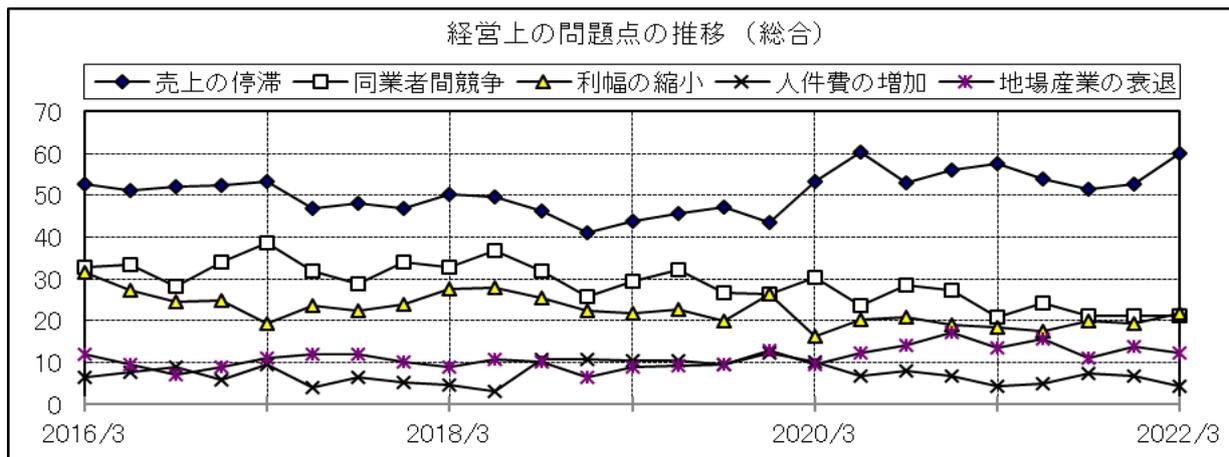
設備投資の充足感を示すD. I. は $\Delta 11.1$ で、前期($\Delta 9.3$)比1.8ポイント下降した。

設備投資実施企業割合は12.9で、前期(11.1)比1.8ポイント上昇した。設備投資は、前期19社に対し、22社の実施となった。来期の設備投資は、14社の予定となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上停滞減少」が60.2%で最も多く、次に「人手不足」24.8%、「利幅縮小」21.7%、「同業者競争」21.1%、「地場産業衰退」12.4%、「諸経費増加」6.2%、「天候不順」が5.6%となっている。

重点経営施策では、「経費節減」が71.7%で最も多く、次に「人材確保」27.6%、「教育訓練強化」5.3%、「不動産有効活用」2.6%となっている。



□ 来期の見通し

来期の予想業況判断D. I. は $\Delta 46.2$ と、今期比5.2ポイントの上昇を見通している。

予想売上額判断D. I. は $\Delta 20.6$ と、今期比33.5ポイントの上昇を見通している。

予想収益判断D. I. は $\Delta 24.5$ と、今期比28.1ポイントの上昇を見通している。

予想販売価格判断D. I. は18.8と、今期比4.7ポイントの上昇を見通している。

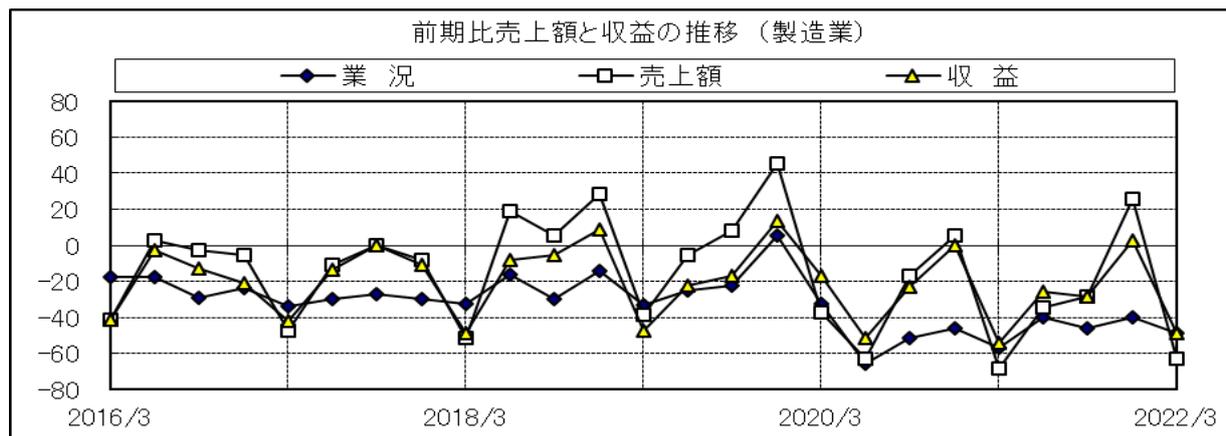
予想仕入価格判断D. I. は44.0と、今期比1.0ポイントの下降を見通している。

製造業 35 企業 (回答率 100.0%) の調査結果です

□ 景 況

DI 値 の推移	7～9月 期実績	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期見通し
業 況	-45.8	-40.0	-48.6	-62.8
売上額	-28.6	25.8	-62.8	-28.5
収 益	-28.6	2.9	-48.5	-34.2

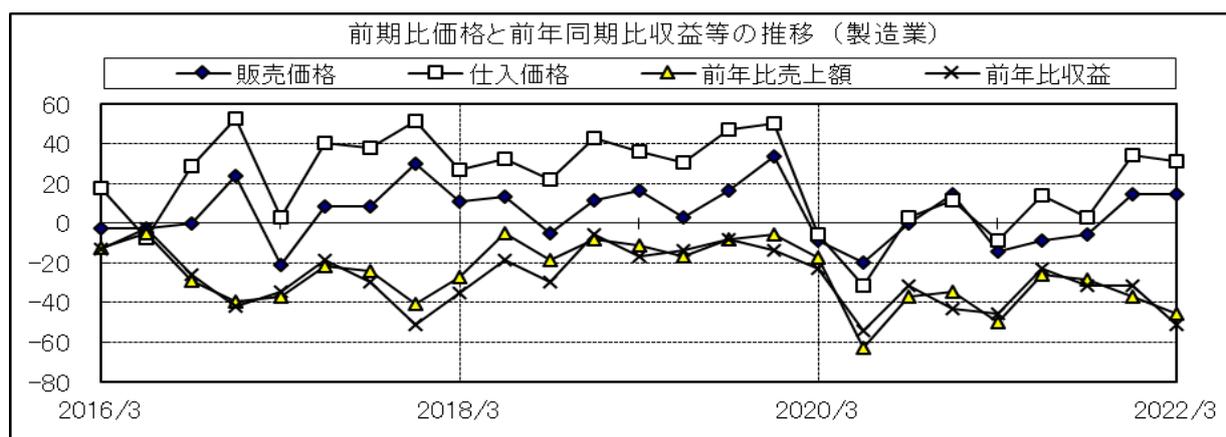
今期の業況判断D. I. は $\Delta 48.6$ で前期比8.6ポイント下降した。地区別のD. I. は高い順に、三石が最も高く、次にえりも、広尾、静内、様似と続き、浦河が最も低い水準となった。前年($\Delta 57.2$)比で8.6ポイント上昇した。売上額判断D. I. は $\Delta 62.8$ で前期比88.6ポイント下降、収益判断D. I. は $\Delta 48.5$ で前期比51.4ポイント下降した。



□ 価格面の動き・前年同期に比した動き

DI 値 の推移	7～9月 期実績	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期見通し
販売価格	-5.7	14.3	14.3	17.1
仕入価格	2.9	34.3	31.4	35.3

販売価格判断D. I. は14.3で、前期と同水準となり、前年($\Delta 14.3$)比28.6ポイントの上昇となった。仕入価格判断D. I. は31.4で、前期比2.9ポイント下降、前年($\Delta 8.6$)比40.0ポイント上昇した。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	7～9月 期実績	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期見通し
残業時間	-8.5	2.9	-20.0	-8.6
人手状況	-17.7	-31.4	-22.8	-22.8

残業時間判断D. I. は $\Delta 20.0$ で、前期比22.9ポイント下降し、残業時間が減少したとする企業割合が増えた。人手過不足判断D. I. は $\Delta 22.8$ で前期比8.6ポイント上昇し、人手不足感は弱まった。

□ 設備投資の動き

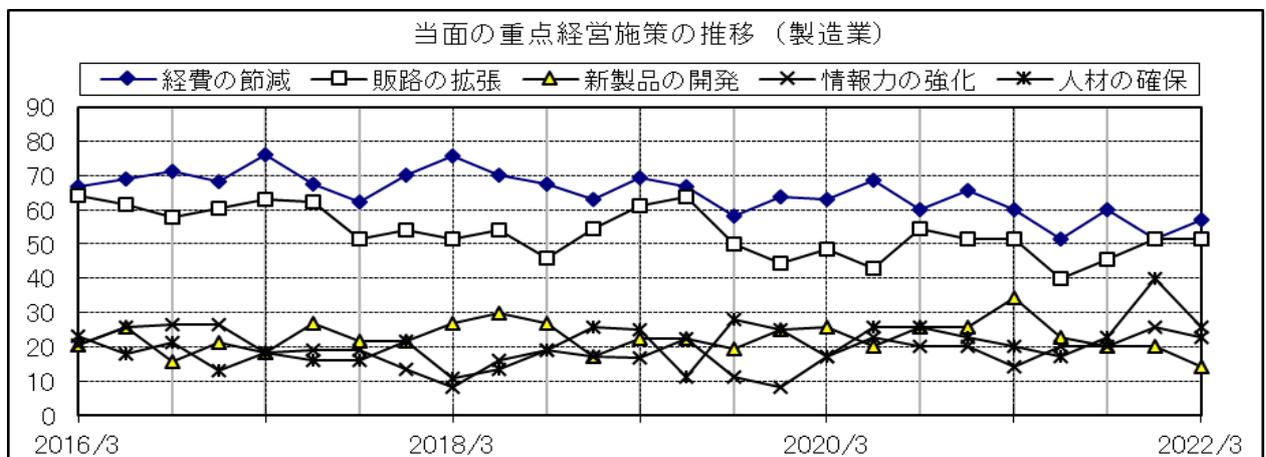
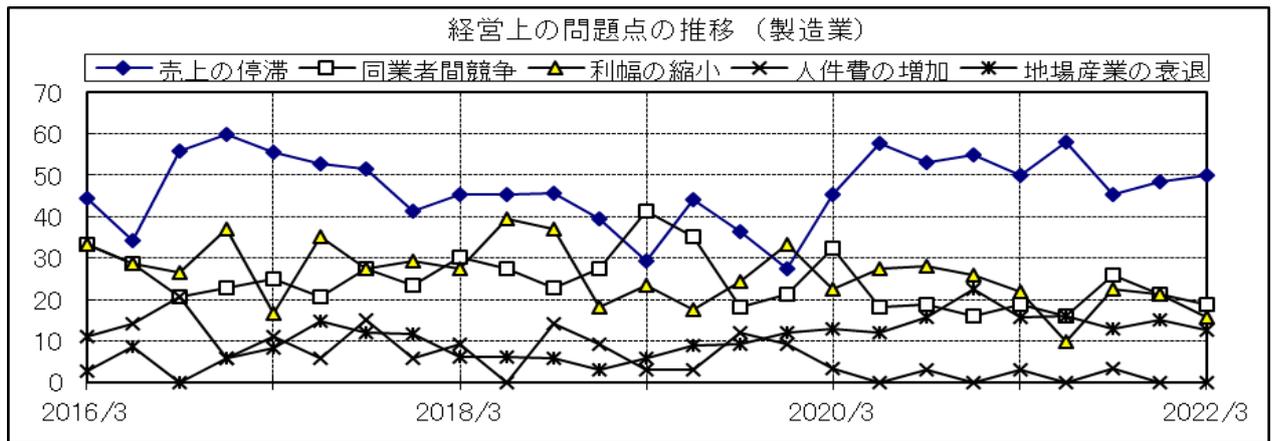
設備投資の充足感を示すD. I. は $\Delta 14.3$ で、前期($\Delta 17.1$)比2.8ポイントの上昇となった。

設備投資実施企業割合は20.0で、前期(11.4)比8.6ポイントの上昇となった。設備投資は、前期4社に対し7社の実施となった。来期の設備投資は、4社の予定となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上停滞減少」が50.0%と最も多く、次に「原材料高」46.9%、「人手不足」40.6%、「同業者競合」18.8%、「利幅縮小」15.6%、「工場機械の老朽化」・「地場産業衰退」が12.5%、「諸経費増加」・「生産能力不足」が9.4%、「大手企業競合」・「値下げ要請」・「地価高騰」・「天候不順」が6.3%となっている。

重点経営施策では、「経費節減」が57.1%と最も多く、次に、「販路拡大」51.4%、「人材確保」25.7%、「情報力強化」22.9%、「新製品開発」14.3%、「機械化促進」11.4%、「教育訓練強化」5.7%となっている。



□ 来期の見通し

来期の予想業況判断D. I. は $\Delta 62.8$ と、今期比14.2ポイントの下降を見通している。

予想売上額判断D. I. は $\Delta 28.5$ と、今期比34.3ポイントの上昇を見通している。

予想収益判断D. I. は $\Delta 34.2$ と、今期比14.3ポイントの上昇を見通している。

予想販売価格判断D. I. は17.1と、今期比2.8ポイントの上昇を見通している。

予想仕入価格判断D. I. は35.3と、今期比3.9ポイントの上昇を見通している。